



IKEDA CITY HOSPITAL



市立池田病院

手術支援ロボット
遂に導入!!

2022.2 Operation

Da Vinci X



手術支援ロボット「ダビンチX」を2022年2月から稼働予定です。前立腺がんのロボット支援手術をご紹介します。

今月は、2022年2月から稼働予定の手術支援ロボット「ダビンチX」と前立腺がんのロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術についてご案内させていただきます。
対象の患者さまがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

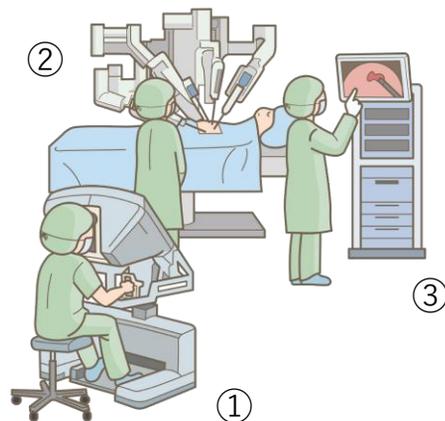
ロボット支援手術とは、手術支援ロボットを使用した腹腔鏡下手術のことで、当院では「ダビンチサージカルシステム」を使用します。

【ダビンチサージカルシステムの構成】

- ①術者が座って操作する操作部
(サージョンコンソール)
- ②上記①と連動して手術操作を行うアームが装着されている
ロボット部
(ペイシェントカート)
- ③光学系を統合するモニター部
(ビジョンカート)

術者は①の操作部で3Dモニターを見ながら遠隔操作で装置を動かします。医師の操作は②のロボットと連動し、医師は患者さまに触れることなく手術が行われます。

また、サポート医師や看護師は、③のモニターを見ながら、術者のサポートを行います。



手術支援ロボットを用いた手術は、2012年に前立腺がんに対して保険収載されて以降、様々な悪性腫瘍に対しても保険収載されつつあります。

前立腺がん ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術

前立腺は骨盤内の最も深い位置に存在します。そのため、腹腔鏡下手術では開腹手術に比べてより良好な視野でのきめ細かな手術が可能でした。

ダビンチサージカルシステムは、低侵襲性という従来の腹腔鏡下手術の利点を保持した上で、以下のような利点が追加されます。

三次元の拡大視野

高画質な3D画像やズーム機能により従来の手術では見えにくかった細かい血管や神経、組織の膜構造が確認できます。

安定した緻密な操作

ロボットアームの様々な形状の鉗子は、人間の手と同等以上の可動域があり、手ぶれ補正機能があるため、細かな作業がより正確に行えます。

身体への負担が少ない

小さな皮膚切開での手術で、キズの大きさは腹部に鉗子を挿入するための8-12mm程度です。
また、一般的な従来の腹腔鏡下手術に比べ、手術時間は短縮され、3時間程度となります。

【手術の対象となる方】

転移のない限局期(T2以下N0M0)の比較的早期に発見された前立腺がんの患者さまが主体です。

年齢は75歳以下を目安としますが、高齢の方で期待余命が10年以上見込まれる場合は手術の対象になりうると考えます。

ロボット支援腹腔鏡下手術では、頭低位(頭を25-30度下げた姿勢)と呼ばれる特別な体位で手術を行います。未治療の脳動脈瘤や緑内障をお持ちの方につきましては、患者さまと相談して対応を決めていきます。患者さまを頭低位にして手術を行うため、眼圧の高い方は適応にならない場合があります、手術前に当院眼科を受診していただきます。

また、骨盤内手術の既往のある方、血液凝固異常など出血傾向の強い患者さまも適応外となる場合があります。

手術前に全身状態を十分に精査して手術適応を決めていくため、患者さまが希望されても手術適応にならない場合もありますのでご了承ください。

